

理学療法学科学生を対象にしたウィメンズヘルス分野の授業実施 における効果について

浅田 菜穂^{1, 2)}, 川口 沙織^{1, 3)}, 平野 正広¹⁾, 中村 浩¹⁾

了徳寺大学・健康科学部理学療法学科¹⁾

医療法人社団了徳寺会・高洲整形外科²⁾

学校法人了徳寺大学附属・船堀整形外科³⁾

要旨

本研究の目的は、本学理学療法学科学生を対象にウィメンズヘルス分野の授業を実施し、授業による学生へのウィメンズヘルス分野に対する理解度、及び興味関心を調査することであった。

対象は、有効回答の得られた90名（男性61名、女性29名）とした。授業前後にて同内容の授業の内容に関する確認テストを実施し、理解度を求めた。授業終了後に選択的解答式質問票を配布した。調査項目は、①ウィメンズヘルスへの興味度②今後の授業で学びたいウィメンズヘルスの内容③月経に対するイメージ④ウィメンズヘルス分野の理学療法を実施したいか否か、について聴取した。結果、確認テストは 7.8 ± 2.3 点から 14.5 ± 3.1 点となった。授業により9割以上の学生がウィメンズヘルス分野への興味を示し、男女共に半数以上が「骨粗鬆症」について学びたいと解答した。卒前教育の一環としてウィメンズヘルス分野を学習させ、女性の健康に関する理解・興味を持たせ卒業教育へと繋げることは重要であり、学生がより深く理解するためにも授業の内容や方法の検討が必要であることが示唆された。

キーワード：ウィメンズヘルス、学校教育、内部障害理学療法

The recognition of menstruation and the influence on practical training in the medical university students

Nao Asada^{1, 2)}, Saori Kawaguchi^{1, 3)}, Masahiro Hirano¹⁾, Hiroshi Nakamura¹⁾

Department of Physical Therapy, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University¹⁾

Takasu Clinic of Orthopedic²⁾

Funabori Clinic of Orthopedic³⁾

Abstract

The purpose of this study was to determine whether or not physical therapy students were interested in “Women's Health (WH)” and identify the effect on the students. Totally, 61 males and 29 females were participated in the study. The participants were given pre and post-tests to identify the level of understanding about WH. The tests were conducted by using an unsigned self-administered questionnaire. The contents of the questions were¹⁾ the level of Interest in WH,²⁾ contents that the students want to learn in the future lecture,³⁾ image about the menstruation,⁴⁾

whether or not the students want to practice WH after graduation. Consequently, more than 90% of the students showed the interest in WH. In addition, more than 50 % of the students responded to learn about “osteoporosis” in depth. The test for confirming the understanding of the content of the lecture improved from 7.8±2.3 to 14.5±3.15 points. It would be essential that the WH needed to be in the physical therapy curriculum. Moreover, the study would suggest that the WH was a continuous issue in the physical therapy profession.

Keywords : Women’s Health, School Education, Physical Therapy in internal medicine

I. はじめに

我が国において、内部障害による健康上の問題は深刻である。2011年の厚生労働省の人口動態調査では、死因の上位三位を悪性新生物、心疾患、肺炎と内部障害系の疾患が占めており¹⁾ その他の疾患と比較し年々漸増傾向を示している。内部障害の患者数は増加傾向を辿り、早急な対策が必要である。リハビリテーションにおいては、2006年の診療改訂により「心大血管リハビリテーション」「呼吸器リハビリテーション」の算定が可能となり、2010年には「がん患者リハビリテーション」を算定出来るようになった^{2, 3)}。また、日本理学療法士協会は2013年に日本理学療法士学会ならびにその下部機関となる12の分科学会と5の部門を設立し、2015年には新たに5の部門を増設した(表1)⁴⁾。以上の事から、現代病ともいえる生活習慣病を含めた内部障害疾患に対するリハビリテーションは重要視されており、知識や技術の普及、理学療法士の質の向上が求められている。

我々の前回の研究では、医療系大学生の月経に対するイメージに性差が生じウィメンズヘルス分野の教育が十分ではないことが明らかとなった⁵⁾。ウィメンズヘルス分野の教育に関しては、1963年の我が国における最初の理学療法士養成機関では実施されており、1989年の指導要領改正においても「産婦人科学」「産前・褥瘡」などの内容が享受すべき内容とされていた⁶⁾。しかし、2000年に行われた新カリキュラム改正では、科目名が明示されなくなった為にウィメンズヘルス分野が教育科目に含まれにくい状況⁶⁾となり、各養成機関の方針に委ねられているのが現状である、本学部においても昨年度までウィメンズヘルス分野の授業を行っていない。近年はウィメンズヘルス分野のリハビリテーションへの需要の増加も相まって、発展が期待されている⁶⁾。そこで本研究では、理学療法分野におけるウィメンズヘルス教育の一助とするために、本学理学療法学科学生を対象にウィメンズヘルス分野の授業を実施し、授業の理解度の変化およびウィメンズヘルス分野に対する興味関心内容について調査することとした。

表1 日本理学療法士文化学会・部門及び専門理学療法士・認定理学療法士の一覧

日本理学療法士学会分科学会	12文科学会	10部門	専門理学療法士 7分野	認定理学療法士 23分野
日本運動器理学療法学会		産業理学療法部門	基礎	ひとを対象とした基礎領域
日本基礎理学療法学会		精神・心理領域理学療法部門	神経	動物培養を対象とした基礎領域
日本呼吸理学療法学会		徒手理学療法部門	運動器	脳卒中
日本支援工理学療法学会		物理療法部門	内部障害	神経筋障害
日本小児理学療法学会		理学療法管理部門	生活環境支援	背髄障害
日本神経理学療法学会			物理療法	発達障害
日本心管理理学療法学会		2015年より増設された5部門	教育・管理	運動器
日本スポーツ理学療法学会	ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門			切断
日本地域理学療法学会	栄養・嚥下理学療法部門			スポーツ理学療法
日本糖尿病理学療法学会	学校保健・特別支援教育理学療法部門			徒手理学療法
日本予防理学療法学会	がん理学療法部門			循環
日本理学療法学会教育学会	動物に対する理学療法部門			呼吸
				代謝
				地域理学療法
				健康増進・参加
				介護予防
				補装具
				物理療法
				褥瘡・創傷ケア
				疼痛管理
				臨床教育
				管理・運営
				学校教育

II. 目的

研究では、本学理学療法学科学生を対象にウィメンズヘルス分野の授業を実施し、ウィメンズヘルス分野における学生の興味関心内容を明らかにすることである。

III. 方法

1) 対象

対象は、本学医療系大学生（理学療法専攻）で「内部障害理学療法実習」を受講している男女90名とした。アンケート内容に不備がある者、同意を得られなかった者を除外対象とした。

2) 調査方法

ウィメンズヘルスの授業は、「内部障害理学療法実習」の1コマ（90分）対面授業方式で実施した。授業前後にて同内容の確認テスト（ウィメンズヘルスの概論、内分泌・消化器・生殖器の解剖学・生理学、妊娠・出産、月経、骨粗鬆症、女性アスリートと外傷、ロコモティブシンドロームの計20問）を実施した。授業終了後に選択的解答式質問票を配布した。調査項目は、①ウィメンズヘルスへの興味度②今後の授業で学びたいウィメンズヘルスの内容③月経に対するイメージ④ウィメンズヘルス分野の理学療法を実施したいか否か、について聴取した。ウィメンズヘルスの興味度に関しては、「大変興味を持った」「少し興味を持った」「あまり興味はない」「まったく興味はない」の4段階評価とし、今後授業で学びたいウィメンズヘルスの内容に関しては、International Organization of Physical Therapy in Women's Healthの推奨する理学療法士養成課程のカリキュラムに含まれることが望ましい項目⁷⁾を参考に、婦人科・生殖器・泌尿器の解剖学・生理学、乳房について（乳がん等）・女性生理学・内分泌学・産科学（妊娠について）・性別に関与する疾患（免疫系等）・尿失禁・便失禁・骨粗鬆症・特になし、の項目を作成し複数回答とした。月経のイメージに関しては、松本ら⁸⁾の先行研究を基に「女性の特質である」「子供を産むため」「健康の証」「女性としての喜び」「わずらわしいもの」「女性だけの苦しみ」の6項目を作成し単一回答とした。ウィメンズヘルス分野の理学療法を実施したいか否かについては、「行いたい」「興味はある」「どちらでも」「あまり興味はない」「行いたくない」の5項目とし単一回答した。

3) 分析方法

分析は、R2.8.1を使用し、人数及び割合の比較に関しては X^2 検定を、2群の比較はMann-WhitneyのU検定を用いた。有意水準は5%とした。

IV. 倫理的配慮

本研究は、了徳寺大学の倫理審査委員会の承認（承認番号:3005）を得ており、対象には本研究の目的、内容を説明し、書面にて同意を得たのちに調査を行った。対象者には、研究協力の辞退が可能であること、学籍に影響を及ぼさないことを説明した。アンケートに関しては、個人情報伏せのため名前の聴取は行わず鍵付きのロッカーで保管を行った。

V. 結果

授業前後の確認テストについて

授業前後の確認テストに関しては、学生全体は授業前が 7.8 ± 2.3 点、授業後が 14.5 ± 3.1 点であった。男性は 7.5 ± 2.7 点から 14.0 ± 3.5 点、女性は 8.2 ± 1.5 点から 15.6 ± 1.8 点であった。学生全体および性別による有意

な差は認めなかった。

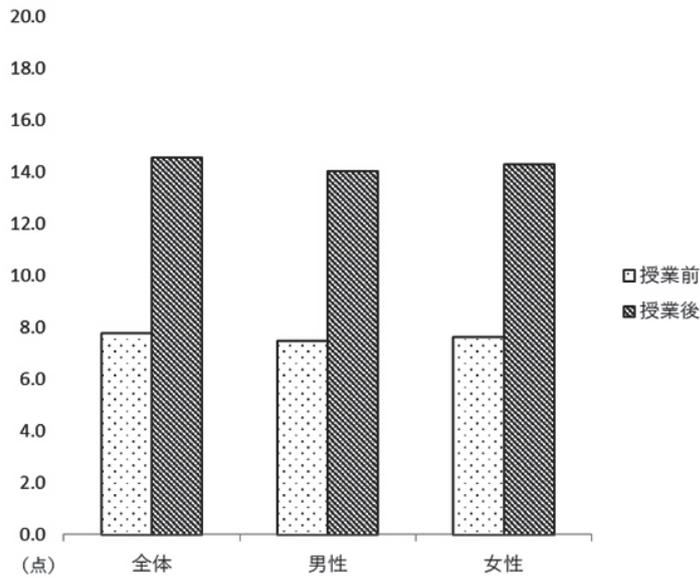


図1. 授業前後の確認テスト点数

2. 配布・回収状況

理学療法学科に所属し内部障害理学療法学を受講している97名のうち、調査当日に登校した97名に質問紙を配布し、96名（回収率99.0%）から回収した。空欄回答があった者、及び同意を得られなかった者を除外し、90名（男性61名、女29名）を対象とし分析に用いた。

3. ウィメンズヘルスへの興味度

授業後のウィメンズヘルスの興味度に関しては、男女差は無く少し興味を持った（男性：n49, 78.9%, 女性：n23, 72.4%）が一番多く、大変興味を持った（男性：n8, 13.1%, 女性 n6, 20.7%）と合わせて総数の9割以上が興味を示した。

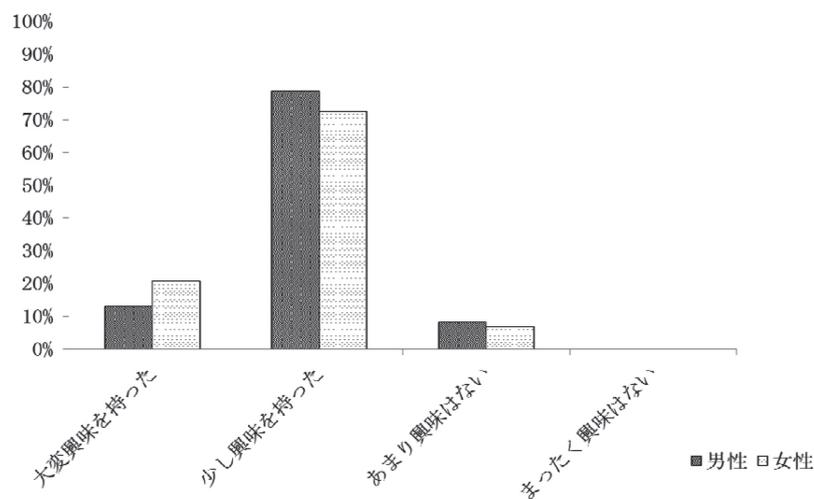


図2. 男女におけるウィメンズヘルスに関する興味度

4. 今後の授業で学びたいウィメンズヘルスの内容

今後の授業で学びたいウィメンズヘルスの内容に関しては、男女ともに半数以上が「骨粗鬆症」について学習したいと回答した。また、「女性生理学・内分泌学」「産科」「乳房について」の分野で女性の方が有意な差を認め、多かった。「性別に関する疾患」に関しては、男性の方が有意な差を認め、多かった。「特になし」と答えた者は女性の方が多かった。

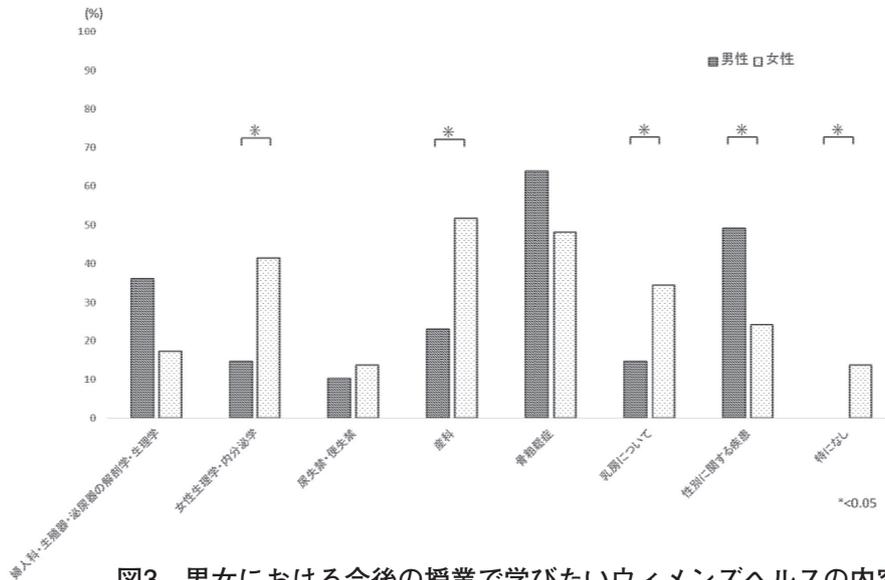


図3. 男女における今後の授業で学びたいウィメンズヘルスの内容

5. 月経のイメージ

月経に対するイメージを複数回答で選択することとした。結果、男女ともに「女性の特質である」と答えたものが多く、次いで「子供を産むため」「女性だけの苦しみ」と続いた。性別による有意な差は見られなかった。

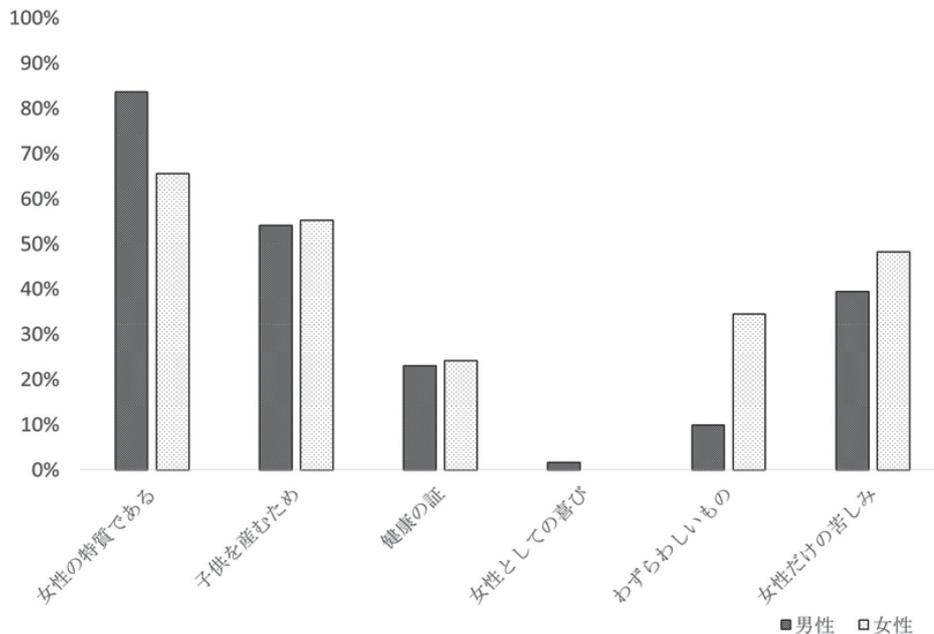


図4. 月経のイメージについて

6. ウィメンズヘルス分野の理学療法を実施したいか否か

ウィメンズヘルス分野の理学療法に関しては、女性の半数以上が「行いたい」「興味がある」と答えたが男女ともに「どちらでも良い」という中立的意見も多かった。

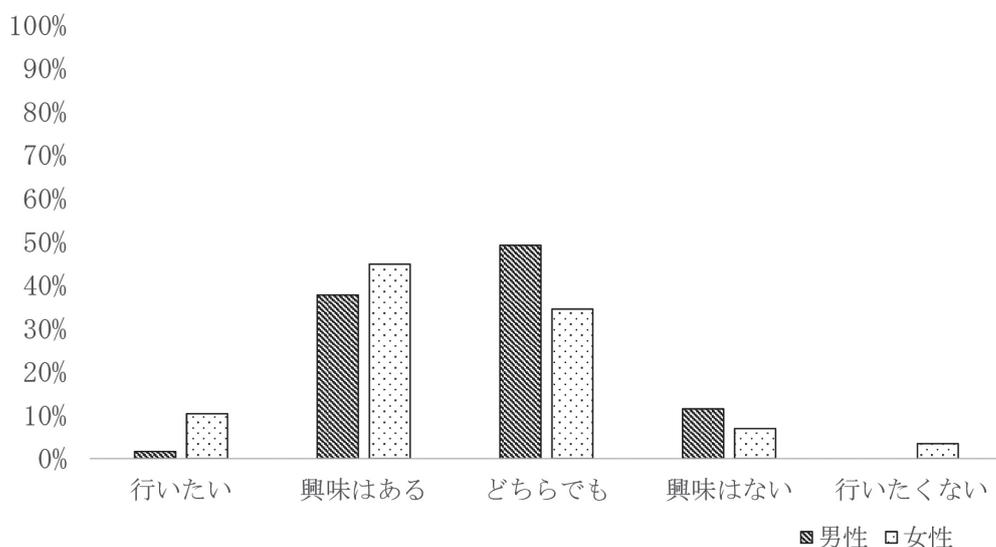


図5. ウィメンズヘルス分野の理学療法を実施希望について

VI. 考察

研究は、本学理学療法学科学生を対象としてウィメンズヘルス分野の授業を実施し、ウィメンズヘルス分野における学生の興味関心内容を調査した。授業前後の確認テストの点数においては、増加傾向にあったものの男女ともに有意な差を認めなかった。ウィメンズヘルス分野に関しては、学生の9割以上が興味を持ったと解答した。今回実施した授業は、主にウィメンズヘルス理学療法研究会が編集したウィメンズヘルスリハビリテーション⁹⁾を参考図書として選択し内容を抜粋して行ったが、全340ページの内容であった。以上の事から、90分の授業では学生が内容まで理解しきれなかった可能性があるものの、ウィメンズヘルス分野への興味関心のきっかけになると考えられた。月経のイメージに関しては、授業において月経に関する内容を実施したが前回の研究⁵⁾同様に男女に性差が認められる結果となった。諏訪部らは、月経の肯定的なイメージは教育や能動的な学習が関与していると示している¹⁰⁾。今回の対面授業のみでは否定的なイメージを変えることが難しく、能動的に学習するような工夫が必要であると考えた。今後の授業で学びたいウィメンズヘルスの内容に関しては、骨粗鬆症に関しては学生の半数以上が希望した。骨粗鬆症に関しては、日本人女性における2010年の推計有病者数は約1,500万人であり要介護の主要な原因のひとつであり生活の質 (Quality of life : QOL) の低下をもたらすとされ¹¹⁾、整形外科や内科学、老年医学などの分野で必ずと言っていいほど取扱う分野である。本研究の対象は3年生であり、骨粗鬆症に関しては他授業で既に学んでいるため男女共に重要視したと考える。女性特有の部位や疾患、産科などの分野に関しては女性の希望者が多く、性別に関する疾患に関しては男性の希望者が多い結果から、学生の学びたいと感じた分野においても性差が生じることが明らかとなった。今回、学生が興味を示している内容を把握できたことは、今後の授業構成を検討する材料として一助になりえる。そのため、学生の授業内容の理解向上につながる手掛かりになることが考えられた。

ウィメンズヘルス分野における発展を望む声は大きい。ウィメンズヘルスを学習する、ということは女

性特有の疾患などの生物学的側面だけではなく、心理社会的側面に関しても考える必要がある。藤原ら¹²⁾は妊娠・育児期の女性理学療法士が勤務するためには、職員への教育や多様な勤務体制の整備が必要だと述べている。女性アスリートに関して月経や婦人科系の悩みを抱える選手も散見され、女性アスリートの現状と課題を把握し予防や準備が可能なのは確実に対応していくことの重要さも報告されている¹³⁾。以上の事から、女性の多面的な健康支援に参加出来る理学療法士を育成するためにも、卒前教育の一環としてウィメンズヘルス分野を学習し女性の健康に関する理解・興味を持ち卒後教育へと繋げることは重要だと考える。今後はウィメンズヘルスだけではなくメンズヘルスを含めた性差医療に関する内容についても講授すること、対面授業ではなく能動的に学生が理解できるよう授業に対する工夫についても検討していく必要がある。

Ⅶ. 結論

本研究は、本学理学療法学科学生を対象にウィメンズヘルス分野の授業を実施し、ウィメンズヘルス分野における学生の興味、関心についてを明らかにした。

結果、授業後9割以上の学生がウィメンズヘルス分野への興味を示し、男女共に半数以上が「骨粗鬆症」について学びたいと解答した。卒前より女性の健康に関する理解・興味を学生が持ち卒後教育へと繋げることは重要であり、今後も内容の改編も含め卒前教育を進める必要がある。

Ⅷ. 謝辞

本研究を行うにあたり、御多忙の中ご指導賜りました了徳寺大学・健康科学部理学療法学科教員の先生方に深く感謝致します。今後も、教育、研究、臨床活動に力を注いでまいりますので、皆様方の温かいご指導、ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

文献

- 1) 厚生労働省：平成23年人口動態統計月報年計（概数）の概況。
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai11/toukei07.html> (2018.11.28 21:00アクセス)
- 2) 厚生労働省：<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000039451.pdf> (2018.11.28 21:30アクセス)
- 3) 宇田和晃, 松居宏樹ほか (2016) 調査 わが国のがん患者リハビリテーションの現況 DPC データベースを用いた集計. 総合リハビリテーション. 44,1107-1114.
- 4) 黒川幸雄 (2007) 理学療法教育. 理学療法概論. 5, 249-293.
- 5) 浅田菜穂, 平野正広ほか (2018) 医療系大学生における月経に対する認識の性差と月経による日常生活, 実習への影響. 了徳寺大学研究紀要. 12, 29-36.
- 6) 松谷綾子 (2014) 臨床入門講座シリーズ「ウィメンズヘルス」連載第1回 理学療法におけるウィメンズヘルスの現状. 理学療法学. 41, 28-33.
- 7) International Organization of Physical Therapy in Women's Health : IOPTWH Position Statements, Women's Health Curriculum in Entry-Level Physiotherapy/Physical Therapy Training. <https://www.wcpt.org/sites/wcpt.org/files/files/IOPTWH-WomensHealthCurriculuminEntry-level.pdf>.

(2018.11.29 14:00アクセス)

- 8) MSG 研究会 (1990) 月経に関する意識と行動の調査. MSG 研究会. Yamagata Journal of Health Sciences.
- 9) ウィメンズヘルス理学療法研究会 (2014) ウィメンズヘルスリハビリテーション, メジカルビュー社, 東京. 1-330.
- 10) 諏訪部晴美, 香川香 (2017) 女子大学生の月経イメージ形成に影響する要因について. 関西大学臨床心理専門職大学院紀要. 7, 1-8.
- 11) 北川淳 (2014) 骨粗鬆症の現状と対策. 理学療法学. 41, 455-461.
- 12) 藤原愛作, 小野秀幸ほか (2018) リハビリテーション部門における女性職員の妊娠期から育児期の労務管理の現状と課題. 理学療法科学. 33, 13-18.
- 13) 土肥美智子 (2017) 女性アスリートの特徴と課題. 女性心身医学. 22, 141-1440, 71-78.